

# 東京都北区における 外国人の新型コロナワクチン接種率の分析に関する研究のお知らせ

帝京大学大学院公衆衛生学研究科、東京都北区保健所では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間： 2022年12月8日 ～ 2025年3月31日

## 〔研究課題〕

在住地域の特徴と外国人の新型コロナワクチン接種率との関連 —東京都北区の事例から—

〔研究目的〕 東京都北区（以下、北区）が保有する新型コロナ感染症のワクチン接種者情報（以下、ワクチン接種者情報）を用いて、外国人の新型コロナウイルスワクチン接種率が低い地域（あるいは高い地域）を明らかにし、その地域の特徴を示すことを目的とします。

〔研究意義〕 東京都北区は全国的にも在日外国人が多い地域であり、外国人の医療サービスへのアクセス、とりわけ新型コロナウイルス感染症流行下においては、在日外国人のワクチン接種率向上が喫緊の課題となっています。本研究において、ワクチン接種者情報を用いて、北区在住外国人の新型コロナワクチン接種状況を調査することで、北区在住外国人の医療サービスへのアクセスの実態と課題を明らかにし、今後の施策提言を行うことができます。

〔対象・研究方法〕 本研究は混合研究（説明的順次デザイン）とし、研究1と研究2に分けて行います。研究1（記述疫学研究）では、北区保健所のワクチン接種データを用い、北区住民35万人（2022年5月31日付ワクチン接種情報）を対象に、北区内113町目別の外国人ワクチン接種率を明らかにし、接種率の高い地域と低い地域それぞれの特徴（性別、年齢層、外国人割合など）を示します。研究2（質的研究）では、研究1で明らかにした外国人ワクチン接種率の特徴を基に、接種率の上昇した時期の前後における北区保健所での取り組みについて、北区保健所職員（所長、ワクチン接種担当職員等）へのインタビュー調査（半構造化面接）を行い、得られた情報から、接種率の上昇に関連する内容を探る分析を行います。

〔個人情報の取り扱い〕 情報はすべて、関係者以外入出が出来ない東京都北区保健所内でのみ利用し、鍵のかかる部屋の資料箱内で補完します。解析に用いるデータを作成する際は、個人を特定できない形に加工し、個別のIDを割り振った情報を分析に用います。また、研究成果を公開する際には統計処理を行った個人が特定されない形式の集計結果のみを発表します。

〔その他〕 対象となる方への金銭的な利益はありません。また、参加しないことによる不利益はありません。参加を希望しない方はいつでも研究に含めないことができます。

対象となる北区住民のうち、ご自身のワクチン情報などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

## 問い合わせ先

研究責任者：井上 まり子 帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 准教授

研究担当者：三原 智子 帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 専門職学位課程 大学院生

TEL：080-6636-1511 e-mail：21MA20020ta@stu.teikyo-u.ac.jp